

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	みつけケアセンターそよ風
(ユニット名)	つばきの里
所在地 (県・市町村名)	新潟県見附市
記入者名 (管理者)	横山美代子(横山美代子)
記入日	平成 21 年 2 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度みつけケアセンターそよ風のスローガン 「気づき・思いやり」 つばきの里ユニットスローガン 「変わらぬ故郷つばきの里」	こうしたらもっと良くなるのという気づき、それに対して行動し、人と人とのつながりを沢山もって行きましょう！思いやりを持って接しコミュニケーションはかって行きましょう。ということで、「気づき・思いやり」を大切にしていきたいと思えます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議時に理念を説明している。また、職員が必ず目にする場所(事務所)に掲示している。 ユニットスローガンは入居者様を書いて頂き、フロア内に掲示している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時や申し込み希望者にも、地域の中で変わらない生活を送って行く所ということをその都度、説明している。	介護日誌や面会簿、パンフレットなど外部の方にも目に触れる文字としても、載せていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民とのすれ違い時には挨拶を交わすように、スタッフ全員が行えるように指導している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して、少しずつ理解を深めている。	本町4丁目地区は、老人会、子ども会、行事などは現在全く行われておらず、高齢化が進んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	消費者協会様より不要のタオルを頂き、レクリエーションとして雑巾縫いを行っている。出来上がった雑巾を市の交流センター2箇所へ地域の皆様へ使っていただけるよう、置いていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価を行っている。 改善点は、リーダー会議などで話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価での結果を会議内で報告している。それを少しづつ理解して頂きながら、話し合いを行っている。		今後も継続し、理解を深めて行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問な点などについては、その都度、市町村担当者と連絡している。		共にサービスの質の向上に向けて、更に協議し、共に取り組んでいこうにして行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、学習する機会を作っている。 管理者、計画作成者で対応しており全職員は理解していない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、学習する機会を作っている。 また、伝達講習として職員へ説明したり、マニュアル説明を行っている。 管理者、ユニットリーダーなどが中心となり見過ごされることが無いよう、声かけを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居前から入居時の説明と不安や疑問点に対する対応や説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	言葉や態度などから、居室にて話を聞いたり、話しやすい環境になるようにしている。また、そこで話し合った内容を記録しどのように対応するのかプランやカンファレンスにて検討している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月1回、居室担当者から報告しその他の事項では、ユニット新聞にてお知らせしている。緊急時や面会時にもその都度、現在の様子を職員より、報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時や連絡時、交流会、行事などの機会に、意見を伺っている。苦情対応マニュアルに沿い、リーダー会議にて検討している。		面会簿に感想・意見を記入して頂ける欄を設けている。用紙を変更中。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	介護リーダーから職員の意見や提案をその都度聞き、必要であればリーダー会議、全体会議へ結びつけ、再度検討している。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者、計画作成者、介護リーダーを中心に調整を行っている。その他、早急な対応が必要な場合は、管理者の協力や職員とおし話し合いを行っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニット職員を固定化して、顔なじみの職員によるケアを心がけている。やむを得ず変わる場合は、職員同士の引継ぎを行い、新しい職員を入居者へ紹介して理解していただけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には、マニュアルなどの確認、説明を行っている。法人内にて段階に応じての研修を行っており、全体会議にて伝達講習も再度行い全職員へ周知できるようにしている。		新人の育成マニュアルを作成していく予定。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そよ風支社内での利用者交流は随時行っている。市内ケアマネージャー同士の交流は月1回の会議にて行っているが、利用者相互の訪問などは行っていない。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の人間関係を把握したり、親睦を深めるような場を計画したりしている。介護リーダーが中心となり、気になる状況の時は話を聞いたり、必要時には計画作成者、管理者も加わり相談に乗れる環境を作っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、資格取得に向けた支援を行っている。個別の面接と自己評価を行いたい。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず事前面接を行って、聞く機会を設けている。ユニット内でも傾聴することに力を入れ、どのように対応するのかを考え、より良いコミュニケーションを図れるように話し合いをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接時に話を伺ったり、面会時などにその都度話している。ご家族様からの意見要望をより良いケアに反映させたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス希望時などの時は、時間を作り意向をよく聞いた上で、ご本人の様子、ご家族の様子、サービスの説明なども検討しながら、ご家族様が納得の上で対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂いたり、共通の話題をご家族様から情報を頂きながら対応している。 馴染みやすいように職員や世話好きの他の入居者様を交えて、コミュニケーションを取り、心地よい環境となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の力が発揮できるような場面を合せて作ったり、日常生活の中でも喜怒哀楽を共感できるようにしている。 生活暦を十分に理解し、特技や趣味などを職員も一緒になって行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの様子を、こまめにご家族様へ伝え、入居者様の思いや様子を理解して頂くと共に、入居者様とご家族様とコミュニケーションを図ることが出来るように援助している。また毎月1回、様子を手紙にして情報の共有をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様と入居者様とで行事に参加できるように、働きかけたり、外出時など一緒に過ごしていただけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人に面会に来ていただいている。 昔から通っていた、床屋や歯医者、大切にしてきた人や場所との付き合いを途切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握し、世話好きの人、個性のある人などそれぞれの場で発揮できるように配慮、調整を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談なども随時対応させていただくことを退去時に話している。 また、利用者同士の関係も説明させて頂き、行き来させていただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の中で言葉や行動、表情など細かいところまで目を向け把握できるように努めている。 希望や意向など明確に把握できない時は職員間で本人の視点に立って話し合いを行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様と信頼関係を築きながら、入居者様の話や、ご家族様、知人の面会時などに少しずつ把握に努めている。		ご家族様、知人には生活歴など把握する事の意味と重要性を伝えプライバシーの配慮を忘れずにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現在出来る力を把握し、その他にも出来る力を発見できるように努めたい。 職員全員が個々の1日の過ごし方、生活リズムを周知するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、入居者様の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。 職員全員で意見交換やモニタリング、ケアカンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人やご家族様の要望を取り入れながら検討、見直しを行い状態が変化したときには、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、情報を共有している。記録に基づいて介護計画の見直しを検討し、活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様、入居者様の状況に応じて、通院や送迎などの支援は行っているが、ショートステイや、デイサービスは行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や、地域での生活ご家族様の意向などその都度、協力をしながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に他にどんなサービスを利用していたか、ケアマネジャーより情報を得たり、希望時には公共機関などの利用もさせていただいている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には対応して行きたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族様との話し合いで、決定している。ご家族様、ご本人様、主治医と相談しながら支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院としては専門医ではないが、ご本人様、ご家族様、計画作成担当者を中心に相談をさせて頂きながらしながら援助している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医院へ相談させていただいたり、そよ風支社内の看護師より助言を頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、毎日状態を把握する為に面会へ行ったりしながら馴染みの関係を継続できるよう援助している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきている場合は、現在の状態を細かくご家族へ報告し、医師とも話し合いながら、事業所としての対応しうる支援方法も踏まえて話し合いをしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の出来ること出来ないことは、その都度話し合いを行っている。 管理者、計画作成者が中心となって対応しており、スタッフ全員での意識や準備が浸透していない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネージャー、相談員、ご家族様など、事前面接時に、これまでの生活スタイル、支援内容、注意が必要な点、など情報交換を行い、住み替えによるダメージを少なく生活出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護リーダーが中心となり、言葉がけや記録、なれなれしくなりすぎたりしないよう、スタッフへ声をかけている。	その都度、声を出していけるよう、また意識が低下しない為にも勉強会などをしていきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	欲しい物を一緒に買い物へ行き、本人の気に入った物を選んで購入して頂いている。 外食や温泉などの希望にも対応している。	わかる力に合わせた説明と全スタッフが統一した対応ができるようにしていきたい。 生活暦や好みを更に探り、入居者様へわかりやすく提案していく機会を多く作っていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを尊重し対応に努めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者様の馴染みの理美容に行ける様、ご家族様を通し連携を取っている。 着替えや身だしなみは、服や化粧道具を用意して特別な行事や外出時に、希望を聞きながら又は自ら使用できるようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの出来る力を活かしながら一緒に準備して職員も一緒に食べている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を理解しており、楽しめるよう生活に取り入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方は、排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を理解し、トイレ誘導を行っている。またトイレで排泄できるように努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から夕方の時間で希望時応じて入浴していただいている。 毎回、入浴の有無を確認して、希望があれば仲の良い利用者同士で入浴したり、楽しく入浴していただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく活動していただけるように努め、夜はきちんと休息出来、生活リズムを作れるよにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族様やご本人様などから情報を得たことを生活歴としてまとめ、一人ひとりにとっての楽しみや気晴らしになるような事が何なのかをカンファレンス、ミーティング時などに検討し、支援に結び付けている。		更に生活歴や役割、楽しみごとをスタッフ全員が理解し、働きかけて行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時には、ご本人様、ご家族様と検討させていただき、現在の状態や今後の対応など含めた上で、決めている。 入居者様希望の買い物時などには、施設でお預かり金としてお預かりしているお金で購入し、それぞれの力に応じて支払いを行えたり出来るよう職員見守りの元に援助している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブなど郊外へ出掛ける機会を作っている。 公共の施設や地域のイベントなどにも参加できるように情報を集め、積極的に戸外へ出るようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中で発見できた希望に対し、計画を立てて外出支援に努めている。		普段ではいけないところに出掛けるチャンスを作って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人を話をして思い浮かべながら、年賀状や手紙に思いを書いたり、電話の希望がある場合もご家族様を通してやり取りができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた際には、感謝の気持ちを表し、ゆっくり話せる場所、環境を作るようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに基づき、説明を行っている。また身体拘束とならないよう、介護リーダー中心となり、日々職員へ声かけを行っている。		介護リーダー会議にて毎月検討している。職員への周知の為、定期的に勉強会をして行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずに、出入口には鈴をつけたり、玄関にはセンサーを設置している。不穏状態となり、戸外へ行こうとしている入居者に対しては、じっくり話を聞いたり、散歩に行き気分転換を図ったりしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中3名、夜間1名で協力し所在確認を行っている。玄関フロアーでの対応についてマニュアル作成。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物、使用后保管が必要な物など把握して取り組んでいる。周知ノートなどを使用し周知している。刃物は使用時以外は入居者の手の届かないところに保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合、速やかに事故報告書を作成し、なぜ発生したのかを明確にし予防対策を検討し今後のケアに活かしている。ユニット会議にて再度検討し評価を行っている。		再度検討、評価後の全スタッフへの周知。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習や避難訓練に消防署より講習いただいている。夜勤中、日中時の緊急対応のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。 普通救命講習(年1回)避難訓練(年2回)地域の防災訓練(年1回)だが、もう少し回数を増やし、定期的に行って行きたい。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて情報として交流は出来ているが、協力を得る体制には至っていない。 地域の防災訓練の時には、参加できる入居者様には職員と一緒に参加している。		運営推進会議にて検討中
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様それぞれの状態に応じて、起こりうるリスクについて計画作成者からご家族様へ話しをし対策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の入居者様の状態を職員全員が把握し食欲、顔色、様子を見逃さずにバイタルチェックを行い、体調の変化が見られる時は原因を調べ、日中リーダー、計画作成者、管理者へとすぐに連絡、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、容量、目的、副作用をまとめて、いつでも確認できる場所に掲示している。 服薬時はチェックを行い服用されたか確認している。 薬の変更は個人記録に記録し、介護日誌、ミーティングにて全員が把握している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食品や乳製品を取り入れ、適度な運動により腸の働きを活発になるように取り組んでいる。 その都度主治医と相談しながら、対策や予防を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけ、介助により口腔ケアを行っている。 夜間は義歯をはずして頂き、洗浄している。		歯科検診も取り入れて、更に口腔ケアの必要性をスタッフと共に進めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしている。 ご本人の好みなどをご家族様から情報を得たり、職員間で情報や気づき等話し合い、提供できるようにしている。 低下されている医師と相談のうえ、介助、補助食品を活用している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルに沿って全職員で換気、手洗いうがいの徹底、予防、対策に努めている。 インフルエンザの予防接種は、ご家族様同意のもと接種を行っている。 職員もインフルエンザの予防接種をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ノロウイルス予防対策としてまな板、包丁は漂白している。 中国製と表示の物は使用していない。 感染症対応マニュアルあり。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者様と一緒に玄関前へ花を植えたり、プランタや畑で野菜や花を育てている。 玄関ホールには、入居者様の意見を取り入れて、水槽に金魚を飼って親しみやすくしている。 また、玄関外にイスを置いて、気軽に座っていただけるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入居者様と生けたり、季節感のある雛人形と一緒に飾ったり、完成した季節の貼り絵や習字を掲示したり入居者様と共に工夫している。 カーテンは防炎加工の物を使用している。入居者様の居室にも防炎加工の物となるように、ご家族様へお知らせしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内では廊下の奥にイスを設置したり、昔から馴染みのあるコタツをたてたりしている。入居者同士が居室にて話をしたい場合は、イスを用意するなどゆっくり話ができるように支援している。 また、ユニットをまたいで遊びに行ったり出来る、声かけを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた私物を置いていただいたり、家族の写真を置いたり、ご本人様が作成した作品を飾ったりして自分の空間を作り心地よく過ごされている。 更に自分の部屋だと思って安心できる部屋にしたい。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	インフルエンザ予防でもあり、換気をこまめにしている。 温度調節はその都度行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具や物の配置、段差などで転倒の危険が無いか考えて対応している。 身体機能に合わせて、歩行器なども使用していただいている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる、出来る力を理解して自身をつけて頂き、自立に向けて支援している。 全職員がわかる力を理解し混乱や失敗の不安材料を取り除けるようにカンファレンスで話し合い、支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で野菜を一緒に作り収穫して、食として楽しんだり、天気の良い日にはベンチやパラソルを立てて、外でお茶を楽しんだりしている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)